

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-295610

(43)公開日 平成10年(1998)11月10日

(51) Int.Cl.⁶

A 47 L 13/20
13/16
13/256
25/00

識別記号

F I

A 47 L 13/20
13/16
13/256
25/00

B
A
E

審査請求 未請求 請求項の数1 書面 (全4頁)

(21)出願番号

特願平9-144453

(22)出願日

平成9年(1997)4月25日

(71)出願人 592263540

湯浅 勉

東京都板橋区常盤台2丁目33番16号

(72)発明者 湯浅 勉

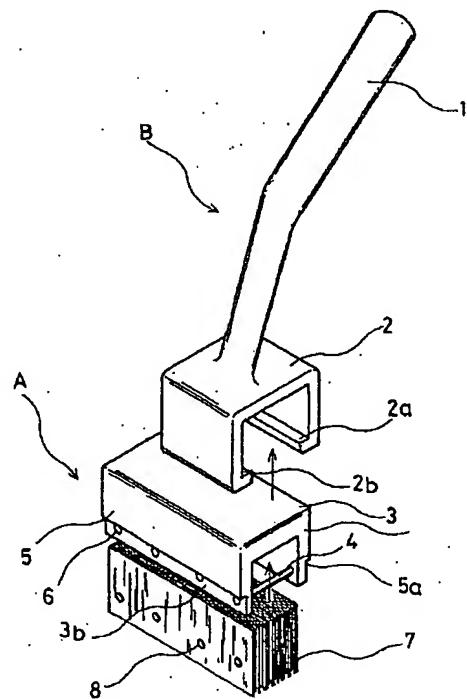
東京都板橋区常盤台2丁目33番16号

(54)【発明の名称】 扱拭用具

(57)【要約】

【課題】 超極細纖維不織布を利用し、黒板、白板、建物の床、側壁、家具、調度品等を、水や洗剤を使わず、傷を付けずに完全に取り除くことができる扱拭用具を提供する。

【解決手段】 両側に拭布固定板5、5aを設けることによって下向きのコの字形に形成された拭布取付枠3の外側下部に段部3、3aを設け、前記拭布固定板5aの内側に複数個のピン4を設け、このピン4に対応する固定孔6を拭布固定板5に設け、拭布固定板5、5aの間に前記ピン4を介して拭布7を嵌着して扱拭体Aを構成し、この扱拭体Aの拭布取付け枠3に別途設けた、握り部1の下端に設けた下向きのC形状の掴み部2を嵌着させて一体に構成したことを特徴とする。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 両側に拭布固定板を設けることによってコの字形に形成された拭布取付枠の外側下部に段部を設け、前記拭布固定板の内側の一方に複数個のピンを設け、このピンに対応する他方の拭布固定板にピン固定孔を設け、両側の払拭固定板の間に前記ピンを介して内部に複数の薄板磁石を介在させた拭布を嵌着して払拭体を構成し、この払拭体の拭布取付枠に別途設けた柄を嵌着したことを特徴とする払拭用具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は超極細繊維不織布を利用し、黒板や白板は勿論、建造物の床、側壁、窓ガラス、家具、調度品等を、洗剤を使わずに汚れを完全に落とし、しかも払拭物の面を傷付けずにきれいにすることができる払拭用具に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来、室内の床面を掃除する用具として筆、モップ、雑巾等があり、側壁、窓ガラス、室内調度品、装飾品等の掃除には雑巾の他に、はたきを使用していた。又、黒板や白板は専用の払拭具（黒板拭、白板拭）を使って字を消し、発生する粉を吸収していた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかし、これ等の掃除用具には次のような欠点があった。

イ、床面の掃除用具である筆は、塵を掃き寄せるだけで、吸収するものではなく、塵取り等で収集しなければならなかつた。

ロ、モップや雑巾は水を浸透させるか、シリコンを浸透させたものでないと塵埃を拭き取ることはできなかつた。

ハ、黒板拭や白板拭は、書いた字を完全に消すことはできないばかりでなく、発生する粉は殆ど吸収されず、落下したり飛散するので衛生的に問題があつた。

ニ、窓ガラスや室内調度品、装飾品等は水又は洗浄液を浸した布を使用しないと汚れを落とすことができなかつた。

本発明は上記欠点を解消し、水や洗浄剤等を使わずに床面、側壁、窓ガラス、室内調度品や装飾品、黒板、白板等を、超極細繊維不織布を利用して手軽に確実にきれいにできる払拭用具を提供することを目的とする。

【0004】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するため本発明は、両側に拭布固定板5、5aを設けることによって下向きのコの字形に形成された拭布取付枠3の外側下部に段部3、3aを設け、前記拭布固定板5aの内側に複数個のピン4を設け、このピン4に対応する固定孔6を拭布固定板5に設け、拭布固定板5、5aの間に前記ピン4を介して複数の薄板磁石9を挿着した拭布7を嵌着して払拭体Aを構成し、この払拭体Aの拭布取付枠

3に別途設けた握り部1の下端に設けた下向きのC形状の掴み部2を、前記段部3、3aに嵌着させて一体にしたものである。

【0005】

【発明の実施の形態】上記のように構成した本発明を実際に使用する場合はつぎのようになる。図3に示したように柄Bの握り部1を手で握り、拭布7を払拭する面に当て、払拭体Aを前後に往復動させながら床面を拭きとる。窓ガラスや黒板、白板を拭く場合は片手で柄Bの握り部1を握って使用するが、面積の広い体育馆やホールの床面を拭く場合は、本発明を大型化し、握り部1を両手で握って使用する。

【0006】

【実施例】以下、本発明の実施例を図面に基いて説明する。図1は本発明の斜視図で、図2は本発明の分解斜視図、図3は、図1におけるI—I—I—I—I断面図、図4、図5は本発明の使用状体を示した図で、図中の符号Aは払拭体を示し、Bは柄を示し、合成樹脂材からなっている。1は柄Bの握り部で、実際に掃除をする場合、手で握る部分で、2は柄Bの下端部に設けられた掴み部である。掴み部2は拭布取付枠3と拭布固定板5の間に拭布7をピン4で取付けることによって構成された払拭体Aを掴むように強制嵌合させて一体にするようになっている。拭布取付枠3は外側下部に段部3、3aが設けられた拭布固定板5、5aを設けることによって下向きのコの字形に形成された枠で、拭布固定板5aの下部に複数個のピン4が設けられ、このピン4に対応する拭布固定板5aの下部にピン固定孔6が設けられている。7は厚手の超極細繊維不織布を、複数枚を横に並べた拭布で、図3に示したように各下端部が交互に高さが異なるように重ね合わせ、更に高さの低い拭布に合わせて薄板磁石9が併設されてある。拭布取付枠3の拭布固定板5と5aの間に拭布7を装着する場合は、合成樹脂材のヒンジ効果を利用して拭布固定板5を外側へ折り曲げてピン4とピン固定孔6の係合を解除し、ピン4を下方へ折り曲げ、折り曲げたピンに複数枚の拭布を順次必要枚数装着した後、各ピンの先端部をピン固定孔6に嵌着する。このように拭布を重ね合わせて嵌着した払拭用具を使用すると、微粉状の塵埃は残らず吸収され、払拭面に残ったり、飛散したりすることは全くない。8はピン挿通孔で、拭布取付枠3と拭布固定板5との間に拭布が挿持された際、拭布が固定板5に設けられたピン固定孔6と合致するようになっている。拭布取付枠3と拭布固定板5の間に拭布7を挿着し、取付けピンで固定して払拭体Aを完成させた後、柄Bの掴み部2を払拭体Bの上方から強制的に嵌め込んで払拭用具は完成する。このように完成した払拭用具は、窓や黒板を拭く場合は、握り部1を片手で握り、拭布7を払拭面に当てて前後に動かすと汚れはきれいに拭き取られる。体育馆や大きなホールの床を拭く場合は、払拭体A及び柄Bを大型のの

ものを使用すればよい。尚、黒板拭、白板拭の拭布7に薄板磁石9を装着したのは、磁性材でできている黒板や白板を拭く際、適度の吸引力によって黒板拭や白板拭が板面に適度の吸引力で吸着されるので、黒板拭、白板拭を横方向に移動させただけで、きれいに消すことができる。

【0007】

【発明の効果】本発明は上記のように構成したので、次のような効果がある。

- a. 拭布は厚手の超極細繊維不織布を、下端部が交互に高さが数ミリ異なるように複数枚を横に重ね合わせてあるので、この高さの異なる低い部分によく吸収される。
- b. 超極細繊維不織布はナイロンとポリエステルの混紡からなり、軽量である上極めて丈夫であるので、汚れを拭き取る際、被拭拭側の素材との摩擦で静電気を発生し、この静電気によって埃や粉末（チョークの粉）が超極細繊維不織布内に吸収され、殆ど飛散するようなことがなくなった。
- c. 吸收された埃は取り外して簡単に水で洗い落すことができ、チョークの粉末等はブラシや電気掃除機で簡単に除去することができる。
- d. 扱拭体は超極細繊維不織布でできていて強韌の上柔軟性に富んでるので、被拭拭材に傷を付けることは全くな。
- e. 扱拭体を大型にし、柄を長く形成すると、体育館やホール等広い床面積の清掃に便利な払拭用具になり、両者を小型化すると、黒板拭、白板拭、窓拭等の清掃に便

利な払拭用具になる。

f. 洗剤等を使用しないので、再度洗剤を拭きとるという後処理を行なう必要が全くない。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の斜視図である。

【図2】本発明の分解斜視図である。

【図3】図1におけるI—I—I—I—I断面図である。

【図4】本発明の使用状態を示した図である。

【図5】本発明の使用状態を示した図である。

【図6】拭布の拡大縦断面図である。

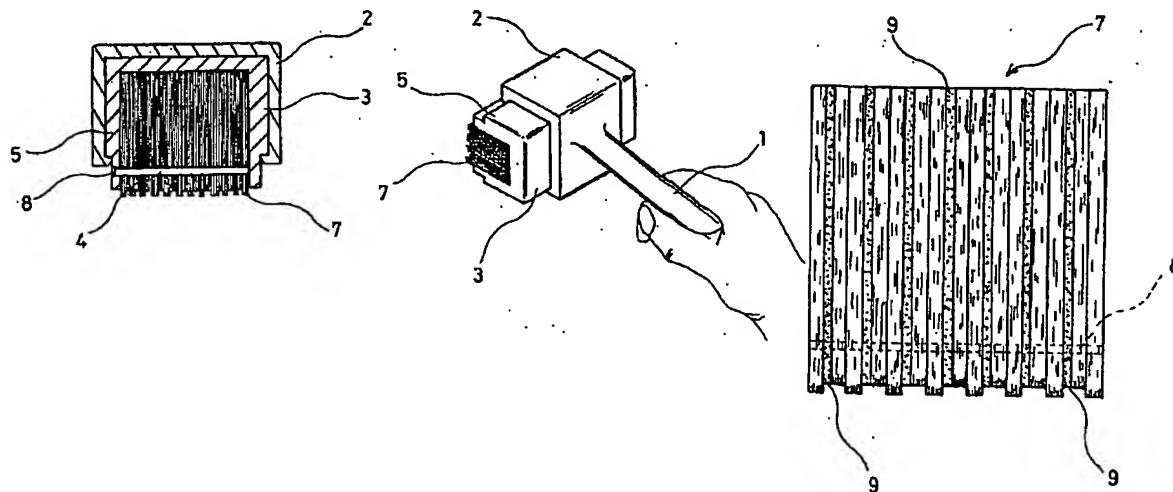
【符号の説明】

- | | |
|----|-------|
| 1 | 握り部 |
| 2 | 掴み部 |
| 2a | 係止部 |
| 2b | 係止部 |
| 3 | 拭布取付枠 |
| 3a | 段部 |
| 3b | 段部 |
| 4 | ピン |
| 5 | 拭布固定板 |
| 5a | 拭布固定板 |
| 6 | ピン固定孔 |
| 7 | 拭布 |
| 8 | ピン挿通孔 |
| 9 | 薄板磁石 |
| A | 払拭体 |
| B | 柄 |

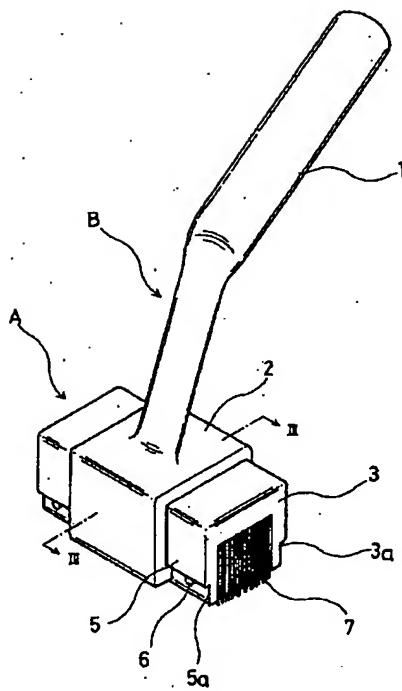
【図3】

【図4】

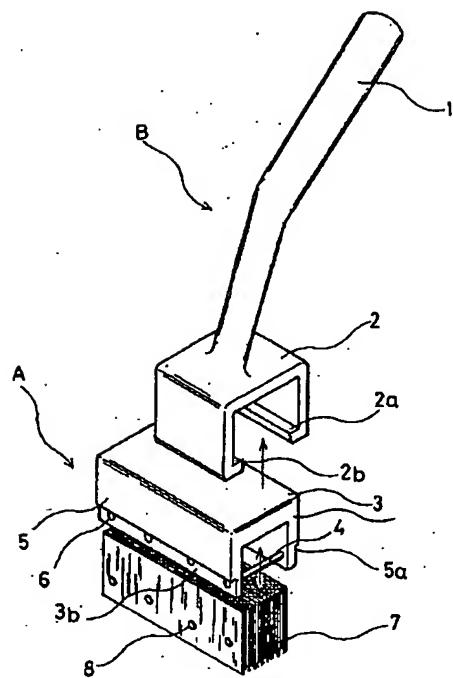
【図6】



【図1】



【図2】



【図5】

